



大切にしたいこと

柏崎 和美

聞き手・嵐 滉稀 本井 佑樹 (石川県立宝達高等学校1年)

直売所ができるまで

私の名前は、柏崎和美と言います。実家は農業をやっていて、子どもの時から田んぼに入っておりました。

農業の仕事をするようになったのは、主人の家が農家やったからです。農協では、事務関係の仕事や肥料とかの説明を農家さんにしておりました。今はどうかわからんけど、私らの時はみんな肥料やら農業やらの勉強をして、説明してから農家さんにお渡ししとったわ。

主人の転勤に合わせて、石川県内を回り、地元に戻ってきて農業をやりだしました。すると、うちのじいちゃんが田んぼとかプラムとか作っておられて、ものすごくロスが出ていました。ちょっと傷があるだけでも捨てとって、それがもったいないと思いました。それでお父さんの友達と2人

で宿にテントを張って、出荷できないものの販売をしたら、人気になったもんで、それから直売所をやっています。年寄りの農家さんとかが作ったものを捨てるとか、やはりもったいないし、店の人気も出たので現在も続けています。

地域の方々とのつながり

直売所は、うちのお父さんと仲間の米沢さんの2人でテントを立てて始めました。始めてから1年ぐら経ってから人気が出だしました。今では、県外の方がいらっしやったり、品物によっては首都圏に発送したりしています。町のホームページで紹介してもらったりして、来る人が増えました。新聞取材とかテレビにも出たりしたので、よく県外の方が調べて電話がかかってきます。直売所をやって大変なことや苦労したことはあんまり考えんようにしてます。何より、いろ



(上) 直売所と柏崎さん
(左) 取材に行った10月はイチジクが並んでいました



んな人と出会えて楽しいしね。

農家とのつながり

直売所の仕入れは、農家さんが直接持ってきておいでになるね。余ったら処分してくださいって言われるけど、めったに残らんね。定期的に品物を持ってきてくれる人は30人ほど

です。季節のものを出してくれる人を入れると80人ほどが、この直売所に関わってくれてます。

地元の人を作るって言うので、みんな安心して買っていくからめったに残らんね。農家の委託販売みたいなものや。季節ごとに品揃えは変わって、変わったものがあると、農家さんが持ってきてくれます。昔から農家をしてらっしゃる人は今でも家庭菜園をしておいでで、直売所ができてから

は余計めに野菜を作って出してくれます。

1日の品数は10種類くらいで、そのまま店に並べとる。値段はまとまった数のものは市場の価格を参考にしますが、この店は安いと思いますよ。私は直売所の代表者として、品物はなるべく残らんようにしたいし、お客さんみんなに喜んで帰っていただけるように、良い品物を揃えて値段を安くしたいと思っています。

加工品を出す人もおいでで、加工品を出す農家さんは保健所の講習を受けて出しているらしい。私自身は必要な資格は無いね。道の駅がたくさんできているけど、うちはあまり影響ないです。農家さんの新鮮な品物が直通やし、春やったら山菜とか秋ならイチジクとか柿とか珍しいもんも出てくるからかな。

お客さんとのつながり

有機米を販売したきっかけは、地元に戻ったときに、ある方が有機米ばかり販売していて、うちらも一緒に売ることになったことかな。有機の米はおいしいし安心やから個人の口コミで人気が出て、今では東京・大阪・埼玉・奈良とか各地に全部郵送していますよ。農協は有機米をあまり出さなし、300袋ほどとれたものはほとんどなくなるね。有機米がおいしいのは農家の米沢さんがいろいろ開発して肥料も有機用のビフィズス菌とかを使っているからかな。ただし、お米の値段はわずかなもんやけど農協さんの値段よりも高い。それでも売れるのは、やはりおいしいからやろね。

[取材日：平成29年8月2日、10月5日]

PROFILE

柏崎 和美 かしわざき かずみ

昭和16年9月17日・76歳
押水特産直売所代表

押水農業協同組合退職後、スーパーなどでの勤務を経て、平成12年に押水特産直売所を開業。地元農家を作る農産物や加工品などを販売する。



● 取材を終えての感想 ●



名人は、人とのつながりを大事にしている、農家の方やお客さんなどに親しみ深く接していました。僕たちも優しく接していただき、帰りには季節の果物をいただきました。旬の果物はとても甘くて食べやすく品質の良さがわかりました。親しみ深く接することは僕たちにとってなかなかできないことなので、そこにもお客さんを惹きつける力があると感じました。

また、取材中に農家の方とお話しする機会がありました。有機米を作っている方で、肥料に工夫をし、土づくりにこだわっているというお話を聞きました。直売所が人との出会いの場になっていることがわかりました。

名人に取材をし、学んだことは、コミュニケーションの大切さです。将来社会に出てからは、いろいろな人とコミュニケーションを取らねばならないので、この取材で学んだことを今後生かしていきたいと思っています。

嵐 滉稀 (写真：左)・本井 佑樹 (写真：右)